

アナログオーディオ&ゆとりライフマガジン

令和元年10月21日発行(年4回刊) 第16巻第1号通巻65号 ISSN1349-595X

季刊・アナログ

analog

2019
AUTUMN
vol. 65

Phile
web

終わりになき「こだわり」を追求



音 を 刻 む

音溝へ挑み続ける
カッティング &
プレスのみま

作り手と聴き手が語り合う「音」の魔力

行方洋一 × 永瀬宗重

(レコーディングエンジニア)

(オーディオ愛好家)

注目の逸品を一挙紹介

音の五つ星物語



まずはアンダンテラルゴにて、同社が現在取り扱う2つのレコードクリーナー「HANNL Mera Professional RB」と「Nessie VINYLMASTER」を2つ比べ、それぞれの機能を比較する

レコードクリーナーは“吸うか吸わないか” 吸引派代表が「ハンル」と「ネッシー」を比較

アンダンテラルゴが取り扱うレコードクリーナーには、現在2つのラインアップが存在する。ひとつは従来から取り扱っている「ハンル・メラ・プロフェッショナル」（以下「ハンル」に略）。もうひとつが「ネッシー・バイニルマスター」（以下「ネッシー」に略）。いずれも吸引式レコードクリーナーとして高い人気を誇ってきたが、「ハンル」の業務が「ネッシー」を製造するドラーベ社に移管。これに伴い大きなメリットを得たのはむしろ「ハンル」の方で、従来の高い性能に、「ネッシー」が備えている“操作性の高さ”がプラス。しかも64万円（税別）と従来モデルよりも大幅なプライスダウンを実現させている。そこで今回、“レコードクリーニングは吸うか吸わないか”の名言を残す“吸引派”の代表、田中伊佐資氏がアンダンテラルゴを訪問。アンダンテラルゴの代表、鈴木 良さんに解説していただきながら、「ハンル」「ネッシー」それぞれの機能性の高さを実体験しつつ、後半は試聴編。ご近所にお住まいで田中氏とも親交の深い、「ハンル」のヘビーユーザー、高橋潤さんのお宅に会場を移し、その効果を体験している。

インタビュー：
田中伊佐資
Isasbi Tabaka

性能+機能性の「ハンル」と
機能のみを重視した「ネッシー」

田中 本誌のレコードクリーナーの企画でも何度も述べていますが、レコードクリーナーには吸引派と超音波派があつて、好みの問題として僕は明らかに前者を支持しています。そんななかで「ハンル」のクリーナーは常に意識している存在なのですが、ここにかけてドラーベ社の「ネッシー」がアンダンテラルゴの製品ラインアップに加わってきました。まずは鈴木さん、そのあたりの経緯をお聞かせください。

鈴木 「ハンル」はハンルさんという方が1993年頃にスタートさせたブランドですが、ご本人が高齢になってしまい、同じドイツ人のドラーベさんに引き継いでもらったというのがいきさつです。

田中 「ハンル」の最新モデルは値段が安くなりながらも、性能と機能はさらによくなったモデルとして本誌の62号でも体験しました。その時はすでにドラーベ・モデルの方を試していたわけですね。

鈴木 そうですね。ただ、「ハンル」はドラーベ・モデルになったからと言って、音がさらに

良くなったわけではありません。あくまでも操作性の強化のみ。「ハンル」は徹底的に音を良くする方向でコストをかけていったのに対し、「ネッシー」はひたすら機能性だけを追求していたモデルです。その結果、「こんな簡単でいいの？」と感じるほど便利になりました。洗浄もバキュームも圧倒的に時間が短くてしかもほぼ全自動。さらにクオリティに関係しないところまではできる限り共有しようという考え方でコストダウンもはかっています。そのような努力があつたので、80万円でしか販売できなかった「ハンル」も性能をアップしながら64万円に下げられた。

田中 「ネッシー」は39万8000円（税別）。どちらを選べいいのか？ 迷う方も多そうですね。

鈴木 ハンルの64万円のなかでローリングブラシの価格が12万円です。これを引くと52万円になります。そうすると「ネッシー」とは12万2000円の差になるので微妙なところですね。でもこれから実際に見て、触っていたいただきますが、「ハンル」と「ネッシー」は質感が全然違うということを実験していただけたらと思います。



HANNL Mera Professional RB

¥640,000(税別) Made in Germany by DRAABE
 ●サイズ：380W×380D×250Hmm ●質量：15kg ●洗浄液タンク容量：300ml ●廃液タンク：450ml



Nessie VINYLMASTER

¥398,000(税別) Made in Germany by DRAABE
 ●サイズ：330W×330D×170Hmm ●質量：9kg ●洗浄液タンク容量：650ml ●廃液タンク：800ml

田中 質感というのはどの部分ですか？

鈴木 主にキャビネットの素材です。ボディのアルミ素材は「ネッシー」の方が多少薄いですが、それからターンテーブルもアクリルで、「ハンル」はアルミ製のしつかりとしたものです。ローリングブラシを駆動させるのに、かなりの精度が要求されるので、もう一つは静電気対策です。「ハンル」のアルミ合金削り出しのターンテーブルは、アースがモーターに直結で付いています。ですからありとあらゆるアースを全部モーターにまとめて、電源のグラウンドに落とすという仕組みになっています。「ネッシー」もほぼ同じことをしていますが、ターンテーブルはアクリル製なので、

肝心なレコードの静電気を吸い取って捨てるということができません。

田中 なるほど。性能+機能性の「ハンル」と、機能のみを重視した「ネッシー」という構図ですね。それでは、実際に機械を動かしながら「ハンル」の「ネッシー」の機能性を比べてみましょう。

■「ハンル」と「ネッシー」を
 実際に比較してみる

マニユアル機能を継承し
 オート機能が強化される

鈴木 「ネッシー」はシンプルかつスマート。すべてを必要最小限にしたクリナーです。洗浄と吸引の2本のアームを位置センサーで感知させ、それと連携させたマイクロプロセッサを

搭載。盤を載せてブラシをセットしたらボタンを押す。クリーニング液も自動で出てきて洗浄を開始。洗浄時間は約1分で、その間に正回転と逆回転を自動で繰り返す。洗浄が終了するとブザーが鳴るので今度はバキュームアームをセットしたら自動でバキュームが始まる。吸引時間も約1分ですからトータルでも、1面洗浄するのに2分もかからないという感じですね。

田中 これは作業が速い！一度に大量にクリーニングしなければならぬ業者の方などはいいかもしれない。吸引音も「ネッシー」でも十分に静かですね。
鈴木 次に「ハンル」です。こちらは2つの使用法が可能です。ひとつはネッシーと非常に近い平型ブラシを使ったオート

モード。もうひとつは徹底的に洗いたい方のために、従来の「メラ」と同じようにローリングブラシを使用したのマニユアルモードです。

オートモードは洗浄も吸引もブラシをセットした後にスタートボタンを押すだけの簡単操作です。各作業の残り時間はLED目盛で表示され、終了時は自動停止と同時に音とLEDの点滅で知らせてくれます。

田中 定期的な洗浄はオートモードで十分かもしれませんね。

鈴木 次にローリングブラシを使用したマニユアルモードで、これは従来からのハンルの王道の使用法です。洗浄液の散布量やターンテーブルの回転スピード、タービンの吸引力を任意に調整できます。また、洗浄液はオートモード用とマニユアルモード用では異なります。ちなみに「ネッシー」の洗浄液も「ハンル」とは違うものです。洗浄時間や洗浄方法によって効率的に洗浄できるように成分を変えています。このあたりはドラーベ社のまじめな姿勢を感じます。

田中 機能の違いはよく分かりました。それでは肝心の音質効果ですね。「ハンル」のユーザーでもあるご近所の高橋潤さんのお宅に会場を移して試聴を試してみよう。

んのお宅に会場を移して試聴を試してみよう。

■高橋潤さん宅で「ネッシー」と「ハンル」の効果と比較

「ネッシー」と「ハンル」の音質的な差を検証する

田中 さて、高橋潤さんのお宅へと移動しました。ここで実際に「ネッシー」と「ハンル」でのクリーニング効果を試してみよう。

高橋 特にオリジナル盤は「ハンル」でクリーニングすると確かに音がクリアになる。鮮度が増すんだよね。

田中 オリジナル盤そのものが何十年も前のものなので、ハンルでクリーニングすればプレスされた当時に近い状態にまで戻せるわけです。そうすると驚愕の世界が待っている(笑)

高橋 ニアメントに近いレコードは「ハンル」で洗うと特に音が良くなるね。スピンドルマークがあまりない盤とかもすごい効果を発揮しますよ。

田中 それではまずは「ネッシー」と「ハンル」を並べて置いてみました。クリーニングマシンはプレーヤーよりいい場所に置くという格言があるんですよ。なぜかというところ、そうしないとやらなくなるから。



堂々と部屋のいい場所に置くことで「じゃあクリーニングするか!」という気分になるんです。高橋さんも「ハンル」をこのまんな中に置いたらどうですか?」

高橋 いやいや、勘弁して下さい。1日3枚クリーニングするのがやつとんだから(笑)

田中 それではまずは高橋さんが最近手に入れた盤ですね。ピートルズの「ヘイ・ジュード」です。これは相当汚いですね。それからダンディなおいがする。変なクリーニング液でも使っていたのかなあ?

高橋 確かに臭い。これはさすがに消えないかもね。まあいいや、まずは汚いままで「ヘイ・ジュード」をかけてみます。

トクト(汚れたままの盤を試聴)

田中 これは洗浄しがいのある音ですね。かなり音が変わる気配がある。まずは「ネッシー」で洗浄した盤を聴いてみましょう。

高橋 「ネッシー」というのは「ハンル」の安いやつなの?

田中 オートマチック系でほとんどボタン一発でやりますね。

高橋 見た目はだいぶきれいになったね。

田中 ダンディな香りも少し減ったな(笑)

トクト(「ネッシー」で処理した盤を試聴)

高橋 全然違う。音がきれいになった。これは分かりやすくいいね。ノイズも圧倒的に少なくなっている。

田中 さつきはボールの音が本当にホコリっぽかった。盤は見た目がきれいになるのが重要なものではなくて、音がいかに良くなるのが重要。それをまっさに体験していますね。それではこの盤をさらに「ハンル」で洗浄してみるとどうなるか? ローリングブラシのマニユアルモードでクリーニングしていただき

みましょう。

トクト(「ハンル」で処理した盤を試聴)

田中 やつぱりいぶん差が出ましたね。ひとつひとつ音もよりはっきりしてきた。

高橋 そうですね。「ネッシー」だけだと、確かにきれいになるけど音は平面的なまま。「ハンル」にすると立体感が出てきますね。

田中 次は僕が持参したレコードを洗っていただいてもよろしいでしょうか? キャロル・キング「つづれおり」のオリジナル盤で西海岸プレス。買ったままなので汚いですね。B面1曲目「You've Got a Friend」を聴きましょう。

トクト(汚れたままの盤を試聴)

田中 これはすぐに「ハンル」で洗浄してください。「ネッシー」よりも近道で処理していただきたい!(笑)それにしてもこの西海岸プレスは音が良さそうでしょ?きれいにしたいなと思っていたら、この企画がきた

のでちょうど良かった。

トクト(「ハンル」で処理した盤を試聴)

高橋 ヴォーカルが全然にこらなくなった。出だしのピアノからして違うね。

田中 素晴らしいね。音がピシッとしてきましたね。あのうも片面も洗浄していただいてよろしいでしょうか?

田中 さて最後にエルビスの45回転盤で実験します。アンダンテラルゴの鈴木さんが新品の盤をたくさん所有しています。ですから「新品状態のまま」ネッシーで洗浄「ハンル」で洗浄の3枚を用意して一気に比較試聴してみましよう。

トクト(新品のままの盤を試聴)

トクト(「ネッシー」で処理した盤を試聴)

高橋 あ、すごい差だ。「ネッシー」だけでも全然いいですね。田中 新品は音像が散漫で大きめにじんできて、どこを聴けばいいんだ?という感じ

でしたが、フォーカスがピシッと合ってきました。「ハンル」でさらに良くなるかどうか?

トクト(「ハンル」で処理した盤を試聴)

田中 やつぱり「ハンル」がいちばんいいな。こっちの方が聴きやすいですね。うるさくない。それでいて迫力が増しているからすごい。

高橋 ポリユームの上がつたように聴こえましたね。ピントが合って、音の立体感がグッとできたね。

田中 極端に言うとうと「ネッシー」はピントが合っただけでした。「ハンル」はさらに音がグッと前になる感じが確認できました。いや、それにしても新品の盤だからといって油断できないなあ。レコードは製造上、剥離剤とか付いているらしいからね。新品の盤を何もしないで聴くのは損だよ。ということでは音質的には「ハンル」がいちばんでした。いろんなクリーニングマシンがあるけど、やはりバキューム式はいいね。

新格言「クリーニングマシンはプレーヤーよりいい場所に置け」